

〔Daily 日本史〕

【問】 2004 年度 本試験 日本史 B 第 6 問

近現代の社会・政治に関する A・B の文章を読み、以下の問い(問 1～4)に答えよ。

(配点 11)

A 日露戦争後から第一次世界大戦期にかけて、民衆の生活や文化に視点を当てた思想や学問が生み出された。第一次世界大戦期には、造船・海運業界などから ア が出現する一方、物価上昇が労働者の生活を圧迫した。イ は、こうした問題をとらえて、人道主義の立場から『貧乏物語』を著した。

既存の体制が生み出す矛盾に対して、マルクス主義の思想や学問は、根元的な批判を投げかけた。1920 年代後半から 1930 年代初頭にかけてプロレタリア文学は隆盛期を迎え、また、^(a)マルクス主義による社会分析の成果が数多く生み出された。

問 1 空欄 ア イ に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 成 金 イ 河上肇 ② ア 軍 閥 イ 河上肇
- ③ ア 成 金 イ 賀川豊彦 ④ ア 軍 閥 イ 賀川豊彦

問 2 下線部(a)に該当する著作として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『日本改造法案大綱』
- ② 『日本資本主義発達史講座』
- ③ 『暗夜行路』
- ④ 『国防の本義と其強化の提唱』(陸軍パンフレット)

B 岸信介内閣は、1960 年に国会での強行採決を経て新日米安保条約を批准した。この直後に岸内閣は総辞職し、後継として^(b)池田勇人内閣が成立した。池田内閣は「所得倍増」をスローガンに掲げた。

岸内閣の下での強行採決に対しては、国会の内外で強い反対運動が展開された。岸の直前に首相をつとめた人物も、強行採決に反対し、さらに岸が後継内閣に「治安対策」と「粛党」を要求したとして、これを強く批判した。^(c)この人物は、大正デモクラシー期に経済評論家・記者として活躍したことも知られている。

問 3 下線部(b)について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① この内閣は、「寛容と忍耐」を唱えた。
- ② この内閣は、沖縄の日本への返還を実現させた。
- ③ この内閣のときに、リクルート事件が起こった。
- ④ この内閣のときに、第 4 次中東戦争が起こった。

問 4 下線部(c)について、この人物の氏名と、この人物が記者をつとめていた雑誌の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 三木武夫—『太陽』 ② 三木武夫—『東洋経済新報』
- ③ 石橋湛山—『太陽』 ④ 石橋湛山—『東洋経済新報』

【解答】 2004 年度 本試験 日本史 B 第 6 問

A

問 1 ①

問 2 ②

B

問 3 ①

問 4 ④